



詩歌雜記

イ 4  
2478  
244



門 14  
號 2478  
卷 244



元文二年己丑月朔日悠歡米の祝跡の時  
よみつけられた

悠歡の

周防

あまのついでに  
うらやまはくし  
心り

山本

八

いふ世に  
春も

松

葉も

高きまゝの花さくら

悠歌  
言流

よけいふかき  
もさきいぬ

敵山安楽院墓有由定家卿

ふむしあし  
おとちり

### 山家鳥

山坊るん 刺来教有志

志はうた  
志は

右後西院御宸翰寫

差意う 頌城女 意歌ヲ讀云

清くは

濁りて

皇女宮代云 一踏踏倒



かしの花をよみてまじりておのれをば  
みればあはれいふもわがまの御まこと  
まじりてあはれいふもわがまの御まこと  
まじりてあはれいふもわがまの御まこと  
まじりてあはれいふもわがまの御まこと  
まじりてあはれいふもわがまの御まこと  
まじりてあはれいふもわがまの御まこと  
まじりてあはれいふもわがまの御まこと  
まじりてあはれいふもわがまの御まこと  
まじりてあはれいふもわがまの御まこと

浮竹えり草庵の暇居のてし

春情處々多 二月六日

春をば催しうきものいかにとをそし  
世へのあはれいふもわがまの御まこと

皇太子降制衣

侍をばしひるも都にまじりてあはれ  
いふもわがまの御まこと

泉久公

きよのしるもまじりてあはれいふも  
わがまの御まこと

西形七

こころの筆をばしひるもわがまの御  
まこと

云福々

色しうもきう極ぬのいしん入  
ふふふふふふふふふふふ

之榮に

いふふふふふふふふふふふ  
ふふふふふふふふふふふ

実陰に

いふふふふふふふふふふふ  
ふふふふふふふふふふふ

。かみりしうふふふふふふふふふふふ  
くふふふふふふふふふふふ

。ちゆす

ふふふふふふふふふふふ  
ふふふふふふふふふふふ

。えらふふふふふふふふふふふ  
ふふふふふふふふふふふ

。ふふふふふふふふふふふ  
ふふふふふふふふふふふ

。兼巡官御神文記上言年三月

近衛左衛門

近衛左衛門

近衛左衛門

ふふふふふふふふふふふ  
ふふふふふふふふふふふ

春の節子獨るるまかしこく  
しるく子のみれ松の牛馬  
蜀山人

文政四年度山内河先生先師如左決心し和歌後  
附屬於予其辭云

九月廿二日夜誓言 明神  
決心し詠

康樂園社禰宣阿波系以文

世若那禮之深山通不入佐和賀志伎  
市迹香久禮氏身半也之濃波海平  
右大隈と市

日太迺辞曲農兼迹不天出志豆  
月乃御邦能浦通寄南一先

右膽大

赤月乃由身能初音迹教馬氏  
賤迺伏屋尔身半比曾米身見

右心小

右以テ先師 病氣中 実大く不尋常 雅也丁感佩 盡  
難波帝遠 諷 奉留 王仁 賀詠 仁 擬 亭

毛 涵 久 清朝久

あるは 埒下 かくる けり 邦 文 事 あり  
今ハ 中 かくる 邦 事 あり

七ノ橋 筑前 筑後 筑前 筑後 筑前 筑後  
は 一 一 筑前 筑後 筑前 筑後

。おのれは市に流るる春の下白銀掛り湯に久し画の原

昔もいれ文のゆしつゝの真まふ 芦花

うけしものさやえきるし

くしんくよきさへさへていふあはれし 昔陰

花若の奴もむくあ

○文化四年丁丑上月十三日

於禁中 御代始御能 周文

夫久屋の 天也まゝ おるし神より

付くしん 天はの御 子孫のま

そやしん 天也 ちまのま

あらの道に 天也 ちまのま

ちまのま 天也 ちまのま

おのれは市に流るる春の下白銀掛り湯に久し画の原

無題 月夜

あはれは市に流るる春の下白銀掛り湯に久し画の原

あはれは市に流るる春の下白銀掛り湯に久し画の原

あはれは市に流るる春の下白銀掛り湯に久し画の原

おのれは市に流るる春の下白銀掛り湯に久し画の原

おのれは市に流るる春の下白銀掛り湯に久し画の原

おのれは市に流るる春の下白銀掛り湯に久し画の原

おのれは市に流るる春の下白銀掛り湯に久し画の原

おのれは市に流るる春の下白銀掛り湯に久し画の原

おのれは市に流るる春の下白銀掛り湯に久し画の原

おのれは市に流るる春の下白銀掛り湯に久し画の原

おのれは市に流るる春の下白銀掛り湯に久し画の原

おのれは市に流るる春の下白銀掛り湯に久し画の原



Handwritten text in a cursive script, likely a letter or a record, covering the right side of the page.

後一信資枝

この道一信資の信資の

山一信資の信資の

後一信資

月短冊

納宗 橋 凡の信資の信資の

日外一信資の信資の 後一信資枝

三月 日 半信資の信資の 船一信資

上巳

花乃名のり乃とまゝいと兼て  
やめまはれい恋くろく見舞

端午

かおれはくろくももも入根  
おきく乃あまはれ毛もあ

夏

くろくももいひいひいひいひ  
あつれいひいひいひいひ

秋

花乃りりりりりりりりりり  
けいりりりりりりりりりり

今京為舞神一箇  
十はあまのりりりりりりりり

よかん歌十一首

高集

神楽大乃春の節

拾一乃神歌

春の節乃あつれいひいひ

あつれいひいひいひいひ

歡喜乃りりりりりりりりりり

りりりりりりりりりりりり

あつれいひいひいひいひ

りりりりりりりりりりりり

りりりりりりりりりりりり

舞乃りりりりりりりりりり



鳥丸光彦郎様宛の書状の御返事

甚だ御返事

まへ

少くも御返事

御返事

〃

御返事

御返事

御返事

御返事

御返事

御返事

御返事

御返事

御返事

御返事

御返事

御返事



山城耳敏河

又さき川

又我を

六帖

百美のたふらふをかんを何

もよれをきくをいふ方候なり

也之

三ノ頃

東武評云

北斗再明迷老身思治老頭

東都永樂聳出羽守太平春

隻輪赫々真街市

九眼瞭々驚鬼神

錢北精下學水車轉皆已舊

薩花大信鷹安部翼備中守各爭新

可憐松平和泉守竹鳥何時返

猶是扇松平和泉守三摺大矢滯人

熊谷敷盛水積

水の池にまきり余りて去りし所は  
よき水もたれかたは十一年の浦使

病るる候位は將に終りてまはははあうりし

蜀山人行令も一時て井より行す之も便に

有るればいふありし

社すま女との居上人乃は如何と

まゝこれかゝはしむ女將

かきく程多きあはれかき

京中松西と蜀山人

天下にいとましく言ふ事なき

甘んじ申すも不積らるる一書

まじりての程多し

あつりて申すれはたはしむ

物たるは各所のくまらふやうなり







右三宮中身跡... 此中身跡... 右三宮中身跡... 此中身跡... 右三宮中身跡... 此中身跡...

體 此文字... 體 此文字... 體 此文字... 體 此文字...

○ 大和守... 大和守... 大和守... 大和守...

大和守... 大和守... 大和守... 大和守... 大和守... 大和守...

あー懐紙

大和守... 大和守... 大和守... 大和守... 大和守... 大和守...

右三宮... 大和守... 大和守... 大和守... 大和守...

氏... 氏... 氏... 氏... 氏... 氏... 氏... 氏...

芭蕉翁... 芭蕉翁... 芭蕉翁... 芭蕉翁...

仁人の徳をまほしむるは二層をいふなり

仁人の徳をまほしむるは二層をいふなり

仁人の徳をまほしむるは二層をいふなり

仁人の徳をまほしむるは二層をいふなり

仁人の徳をまほしむるは二層をいふなり

仁人の徳をまほしむるは二層をいふなり

仁人の徳をまほしむるは二層をいふなり

仁人の徳をまほしむるは二層をいふなり

仁人の徳をまほしむるは二層をいふなり

仁人の徳をまほしむるは二層をいふなり

表巻の巻

仁人の徳をまほしむるは二層をいふなり

仁人の徳をまほしむるは二層をいふなり

度上勅

仁人の徳をまほしむるは二層をいふなり

仁人の徳をまほしむるは二層をいふなり

仁人の徳をまほしむるは二層をいふなり

仁人の徳をまほしむるは二層をいふなり

仁人の徳をまほしむるは二層をいふなり

仁人の徳をまほしむるは二層をいふなり

仁人の徳をまほしむるは二層をいふなり

仁人の徳をまほしむるは二層をいふなり





めりしもの一ありとよむもの人きりしめりて又ら記  
したるゆへにうらむる所なきものなりと山依因  
をいふの事おぼしき人かきしる所の事ありし  
年あつたる信より日山へまじりて行を  
りし事ありしなり

。文曆二年五月廿日

不存自不知書文字中 漢法中法也所  
形故予丁書也 祇入道 龜切 維 抱 見 昔  
懸 際 筆 下 送 了 古 東 人 款 告 一 首 自  
天 智 天 皇 以 來 乃 宗 隆 仰 雅 任 卿

天明月記

天福元年八月二十日自南京方未使者小

重云 考 對 南 都 云 猫 脰 歎 出 是 一 夜 斃 人  
七八人死者多 或人并殺件 歎目如猫其  
形如也長云 二陰 院 師 對 京 中 此 見 其  
由 雜 人 稱 又 稱 猫 脰 病 諸 人 病 惱 之  
由 廿 年 一 所 人 傳 之 若 友 京 中 者 他  
丁 傳 事 狀

秋 日 登 野 山 賦 懷 舊 持 一 池

日 野 外 山 林 寂 寂 了 孤 風 洞 迷 自 覺 烟  
南 勢 遠 水 舟 來 去 懷 古 峯 危 乃 月 更 照



松久平一友

雅章

後位大納言十二代  
雅宣卿男實雅庸卿三男

鞠乃庭所より傳めかきよはなれて  
松久平一友もあはれ

蹴鞠

雅威

三位大納言二十代父雅重卿  
自雅重卿七代自

月形松久も人となり  
うまはしきもくはなれはなれ

蹴鞠

雅光

参議左衛門督十一代父雅成卿  
自雅重卿八代自

花後元成れもくはなれはなれ  
あせもくはなれはなれ

古事本に雅光は源朝長の子と云ふに源朝長は教正朝長の子  
子時文の五年七月十一日ある也

谷川士俊りくはなれはなれ

松久平一友の御所の御所

松久平一友の御所の御所

松久平一友の御所の御所

社者

白の侍なりくはなれはなれ

松久平一友の御所の御所

音ねの御所の御所

松久平一友の御所の御所

社者

まじりかたのふりかへりよ

月こころをきかたのねんじ

海陽のふ子ねかたのちののあつらふ

まね處位をりあつらふ

まうてききしるし今竹のまを

社名

いしあつらふ

社名あつらふ竹の

寛政年のもき柴月のまはるる節から

あつらふ

ねんじあつらふ

うま

あつらふ

あつらふ

あつらふ

あつらふ

あつらふ



お前とてわすれしとてさるる仲よ  
芽せしつる子もさるるこの花を  
すの指木と池のけふたも  
ちとわすれしとてさるる仲よ  
のふあもさるるさるる仲よ  
こふとて

この花のさるるのさるる  
むすののたさるる  
この花のさるるのさるる  
子もさるる

ありはれ

大方の花より 後にかよ死を

手とりてさるるをさるる

基貞朝

けしきの花をさるる

さるるのさるる

政直朝

かえさるるのさるる

さるるのさるる

徳我

さるるのさるる

さるるのさるる

Handwritten text in a cursive script, possibly a list or notes.

Handwritten characters, possibly a date or reference.

Handwritten text in a cursive script.

Handwritten text in a cursive script.

Handwritten characters, possibly a date or reference.

Handwritten text in a cursive script.

Handwritten text in a cursive script.

Handwritten characters, possibly a date or reference.

Handwritten text in a cursive script.

Handwritten text in a cursive script.

Handwritten characters, possibly a date or reference.

Handwritten text in a cursive script.

道脈

Handwritten text in a cursive script.

Handwritten text in a cursive script.

短冊

Handwritten text in a cursive script, enclosed in a rectangular box.



好  
はもいふ人の年や春の  
花よりわらわりの色も  
青柳の心も

竹

軒もさうくさくさく  
はるるあつたけの  
身もたつたけの

櫻

あつたけは

東風にあつたけの  
心もさうくさくさく

梅  
又さうくさくさく  
とれのはさくさくの枝

桃

心

かの子さうくさくさく  
餘はさくさくさく

池  
和さくさくさくさく

花  
舞枕雑

人  
あつたけは  
心もさくさく

松平新三郎  
安部公房

豆丁人

守屋の通風を

少野の娘の地を

一人志

職助

土生金

兌艮

澤咸

金土

三三

兌上 艮下

職安

金生水

澤水困

金水

三三

兌上 坎下

大<sup>五</sup>吉  
職脩

土<sup>五</sup>大<sup>五</sup>吉

職利

土生金

兌沢  
三三  
兌上 兌下

金金

澤咸

一

下

大吉

職和

土生金

澤地萃

☰☷

兌上 坤下

金土

大吉

職禮

兌為沢

☱☱

金金

大吉

職治

日職和

澤困

☱☲

兌上 坎下

金水

職任

